

令和6年度 第2回 国際医療福祉大学成田病院
医療安全監査委員会実施報告書

国際医療福祉大学成田病院医療安全監査委員会規程に基づき、監査を実施しましたので、以下のとおり報告します。

1. 監査の方法

国際医療福祉大学成田病院の医療安全管理と感染管理に係る体制及び業務の状況等について、病院長及び関係職員からの説明聴取及び資料閲覧により監査を行った。

2. 監査実施日時・開催形式

令和7年2月19日（水）15：00～16：30 Web形式

3. 監査実施事項

1) 医療安全管理報告について

- (1) 前回の監査結果からの取り組み
- (2) 令和6年度実績結果報告（中間[4～9月]評価）

- ①医療安全管理
- ②医薬品安全管理
- ③医療機器安全管理
- ④医療放射線安全管理

2) 感染管理体制報告について

- (1) 前回の監査結果からの取り組み
 - ①組織体制
 - ②教育体制
 - ③サーベイランス
- (2) 令和6年度実績結果報告（中間[4～9月]評価）

- ①環境ラウンド
- ②ファシリティーマネジメント
- ③職業感染対策
- ④周術期抗菌薬の投与適正件数の判断基準

（国際医療福祉大学成田病院から医療安全監査委員への質問）

4. 監査の結果

1) 医療安全管理報告について

- (1) 前回の監査結果からの取り組み

前回の指摘事項であった、インシデントレベル0の報告を増やす取り組みと

して“レベル0 報告キャンペーン”を行い、特に医師からの報告が増えたことは評価できる。今後もレベル0 及び医師からの報告件数を高い水準に維持するよう努めていただきたい。

(2) 令和6 年度実績結果報告（中間[4～9 月]評価）

①医療安全管理

- ・医師からのインシデント報告を増やす取り組みとして、教育的な面も含めて、研修医など若い医師からの報告を促す試みを期待する。
- ・転倒・転落の発生率、損傷発生率のレベル0 が0 件であることに関して、現行のレベル0 の定義「転びそうになった」については、踵をつぶしていた、スリッパで入院した等の「転倒のリスクがある」事例もレベル0 とするなど、定義を再検討いただきたい。
- ・ベストプラクティス賞・ポジティブレポート賞について、チームを表彰するという取り組みが評価でき、継続していただきたい。

②医薬品安全管理

- ・薬剤に関する、薬剤師以外の職種のインシデントについても、医療安全の専従薬剤師、病棟担当の薬剤師、医薬品安全管理責任者等で構成する会議を月1 回開催、薬剤部全体での情報共有を行い、他職種と連携して防止策を講じていることが確認できた。
- ・既承認医薬品の適応外使用申請について、取り決めた定義に基づき、適正にリスク分類していることが確認できた。
- ・医薬品に関する医療安全ラウンドは、全部署を対象に、適宜行っていることが確認できた。
- ・患者毎のアレルギー管理については、医師・看護師等の各職種がアレルギー情報を把握した際、電子カルテに登録する運用としており、手順書に明記していることが確認できた。

③医療機器安全管理

- ・送信機の安全使用に関して、セントラルモニタの電池残量アラームの発報対策として、アラームが鳴ったら都度交換するよう指導し改善に努めていることが確認できた。
- ・機器トラブル・不具合発生時の連絡経路の構築として、保管・受渡場所を設けて業務の標準化・効率化を図ったことは評価できる。

④医療放射線安全管理

- ・医療放射線安全管理体制、マニュアル等の改訂、医療放射線に関する安全対策への取り組みについて確認した。前回の委員会で指摘した写損率（再撮影）について、モニタリングの結果を次回報告していただきたい。

2) 感染管理報告について

(1) 前回の監査結果からの取り組み

①組織体制

- ・組織体制については、インфекションコントロールリーダー会を運営していることは非常に評価出来るが、コメディカル部門が含まれるような組織体制を検討していただきたい。

②教育体制

- ・教育体制については、医師に向けての集中的な講義や手指衛生を強化するためのキャンペーンなどの実施は良い取り組みであり、評価できる。

③サーベイランス

- ・サーベイランスは、厚生労働省サーベイランス事業に参加予定ということであるが、ぜひ、実施している診療科と連携を取って、リアルタイムでフィードバックを図っていただきたい。

(2) 令和6年度実績結果報告（中間[4～9月]評価）

①環境ラウンド

- ・環境ラウンドで見つけた問題は直ぐにフィードバックを行い、改善が図れていることは評価できるので、チェックリストの見直しなどを行いながら、継続して実施していただきたい。

②ファシリティーマネジメント

- ・感染症患者入室中の清掃と退室後の環境消毒が十分に出来ていないとのことだが、清掃職員への教育、清掃方法を細かく指導していくとよいと考える。

③職業感染対策

- ・針刺し報告が少ないということであるため、針刺し防止キャンペーン等をつけて、報告の重要性を全職員に周知しできるようにしていただきたい。

④周術期抗菌薬の投与適正件数の判断基準

- ・周術期抗菌薬について、ご質問の投与適正件数の判断基準については、SSIサーベイランスの感染率と合わせて評議会でも議論がなされている。国際医療福祉大学成田病院のデータを分析していくのであれば、今後厚生労働省のサーベイランス事業に参加していくということも方法の1つと考える。

以 上

2025 年 4 月 15 日

国際医療福祉大学成田病院医療安全監査委員会
委員長 横手 幸太郎